



2027年3月期 第1四半期

決算補足説明資料

株式会社リミックスポイント

2026年 8 月14日 | 証券コード：3825

CONTENTS

業績概要	05
主な事業別トピックス	07
蓄電ソリューション事業	08
エネルギー事業	16
デジタルアセットマネジメント事業	26
Appendix	29

- リミックスポイントは、「エネルギー」と「テクノロジー」を両輪とした総合デジタルアセットマネジメント企業です



*1 2026年3月期中間期より、名称をレジリエンス事業から変更

*2 2026年3月期中間期より、名称をビットコイン・トレジャリー事業から変更

蓄電ソリューション 事業

蓄電池・再エネ・
省エネコンサルティング関連事業

RP・Remix Battery

- FIP転化事業、系統用蓄電池事業
- 各種補助金等の活用支援に関するコンサルティング



エネルギー事業

電力小売事業

リミックスでんき

- 全国*で高圧、低圧需要家に電力を供給
- Non-FIT太陽光発電所の運営



* 沖縄エリアおよび離島を除く

デジタルアセット マネジメント 事業

ビットコインの戦略的運用と
ディープテック領域への展開

bitcoin

- 暗号資産の保有および運用
- ディープテック専門メディア『DEEPPPOINT』の運営



2027年3月期 第1四半期 業績概要

● 蓄電ソリューション事業

- 蓄電池の販売代理店開拓や積極的な販売活動により、家庭用ハイブリッド蓄電システム「remixbattery」および小型産業用ハイブリッド蓄電池の販売台数が順調に伸長
- 補助金の採択に伴う省エネコンサルティングおよび省エネ商材の販売も前年同期比で増加。新規事業であるFIP転化事業の高圧・低圧案件の獲得や系統用蓄電池関連の販売も寄与し、増収増益となった

● エネルギー事業

- 大口需要家の獲得推進および販売代理店網の強化により、高圧は総契約容量・販売電力量共に前年同期比で増加。低圧も、代理店網の拡充と連携強化により、法人・家庭用ともに契約口数が大きく伸長
- 加えて、JEPX価格が前年同期比で高い水準で推移した影響もあり、大幅な増収増益となった

● デジタルアセットマネジメント事業

- ビットコイン等暗号資産の保有・運用を推進し、レンディング等によるストック収益を着実に積み上げ
- 保有暗号資産の評価損失19.4億円を計上

(単位：百万円)		2026年3月期 1Q累計実績	2027年3月期 1Q累計実績	増減
売上高	蓄電ソリューション事業	230	297	+66
	エネルギー事業	4,139	7,627	+3,488
	デジタルアセットマネジメント事業	1,970	▲1,890	▲3,861
	その他	153	1	▲152
	合計	6,494	6,035	▲459
営業利益 (▲は損失)	蓄電ソリューション事業	▲9	13	+23
	エネルギー事業	183	611	+428
	デジタルアセットマネジメント事業	1,970	▲1,890	▲3,861
	その他	▲14	0	+14
	セグメント調整額	▲388	▲452	▲63
合計		1,741	▲1,717	▲3,458
経常利益 (▲は損失)		1,760	▲1,775	▲3,535
親会社株主に帰属する当期純利益(▲は純損失)		2,283	▲1,774	▲4,058

※エネルギー事業は機動的な経営体制構築のため、2026年10月1日付で会社分割を実施予定です（2026年5月公表）。
※デジタルアセットマネジメント事業の売上高には、保有する暗号資産および営業投資有価証券の評価損益のほか、レンディングによる暗号資産イーールド収益が含まれております。

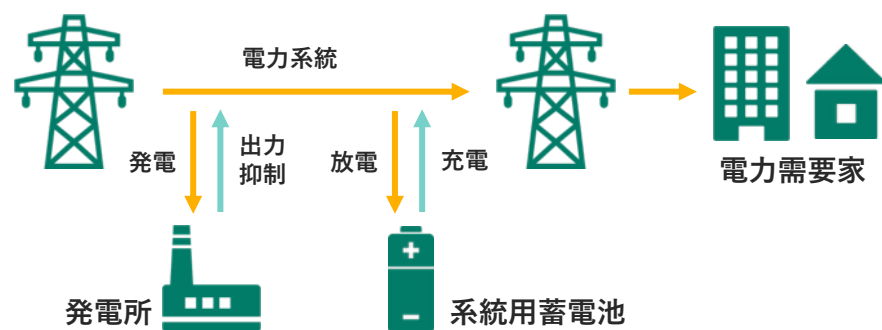
An aerial photograph of the Tokyo skyline, featuring numerous skyscrapers and the Tokyo Tower. The image is overlaid with a semi-transparent blue filter. The text is positioned on the right side of the image.

2027年3月期 第1四半期
主な事業別トピックス

蓄電ソリューション事業

現在の取り組み

- 系統用蓄電所のコンサルティング・開発
 - ・ 用地選定～設計・施工まで**最適な蓄電池システムを提供**
 - ・ 高圧に加え、需要が高まる**低圧系統用蓄電池**の開発・提案も推進
- 系統用蓄電所の自社保有・運営
 - ・ **自社保有10か所**へ拡大（2か所が需給調整市場に参入済）
 - ・ 設備販売にとどまらない**継続的な収益化が本格始動**



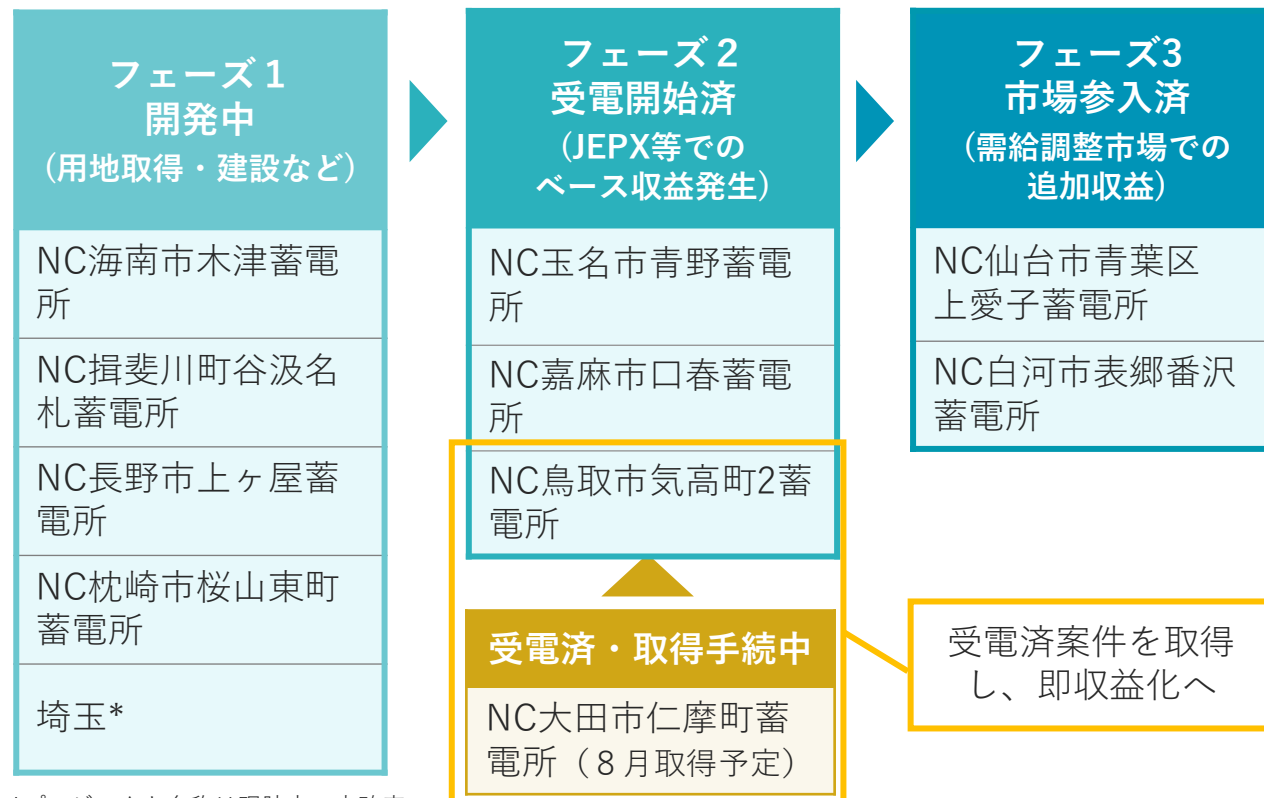
今後の展望について

- 自社保有20か所以上を目指す
 - ・ 中計目標に向けた、開発・取得の推進
- スtock収益の最大化
 - ・ 投資金額を2～4年で元本回収
 - ・ さらに、複数の市場に順次参入することで**収益ベースを拡大**



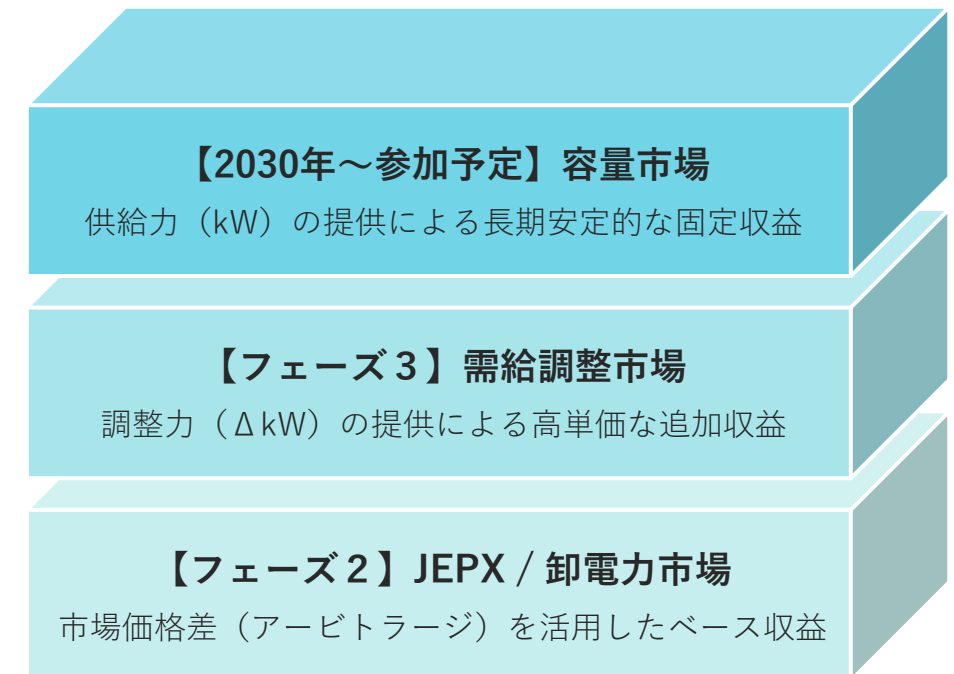
- **自社保有蓄電所は現在10か所**（合計出力20MW / 容量80MWh）。中期経営計画の目標である「2029年3月期までに20か所以上保有」に向け、着実に進捗
- 既に複数拠点で**収益化フェーズに突入**。今後は複数の市場を組み合わせた最適運用により、**早期の投資回収**と**長期的な安定収益**を実現

開発パイプラインの進捗



*プロジェクト名称は現時点で未確定

収益構造



需給調整市場参入後の月間収益見込：**約2,000万円** / 1 拠点
（※出力約2MW / 容量約8MWh規模の施設の場合）

- 売上計上前の受注状況と開発進捗を可視化し、当事業の成長軌道を分かりやすくお示しします

系統用蓄電池販売事業

KPI項目		実績／見込み
当期受注済	案件数	4 件
	容量	32MWh
	受注残高	16.8億円
受注見込案件	案件数	3 件
	容量	24MWh
	想定金額	16.1億円
参考パイプライン総額*		32.9億円

* 参考パイプライン総額は、受注残高と受注見込案件の想定金額の合計です。
受注見込案件は、商談・案件化が進捗しているものの正式受注前の案件を含む参考指標であり、受注の成立又は記載金額を保証するものではありません。

自社保有蓄電所

KPI項目	実績／見込み	指標の説明
自社保有蓄電所数	10か所	ストック型収益資産の保有総数
受電開始済	5 か所	上記「自社保有蓄電所数」のうち、受電（系統連系）を開始し、収益化フェーズにある施設数
需給調整市場参入済	2 か所	上記「受電開始済」のうち、同市場へ参入した施設数
総定格出力（保有10か所合計）	約20MW	各市場へ一度に提供できる電力の最大規模
総定格容量（保有10か所合計）	約80MWh	市場取引において充放電できる総電力量
想定月間収益*（1か所あたり）	約2,000万円	稼働済施設1か所あたりの月間想定収益
累計投資額	43.5億円	将来の収益基盤に向けて投下済みの投資総額（取得予定案件への投資額を含む）
年内開発中・取得予定	6 か所	年内の運転開始に向けて開発を進める施設数

* 現時点の市場取引価格に基づく当社シミュレーションおよびアグリゲーターの実績値等を踏まえた想定値です。

自社保有・取得予定蓄電所の開発状況

No.	施設名	所在地	定格出力	定格容量	受電開始 （系統連系）	需給調整市場参入
1	NC玉名市青野蓄電所	熊本県玉名市	1,998kW	8,146kWh	2026年 3 月 5 日	2026年8月頃 （予定）
2	NC仙台市青葉区上愛子蓄電所	宮城県仙台市	1,998kW	8,146kWh	2026年 4 月 1 日	2026年 6 月23日
3	NC口春蓄電所	福岡県嘉麻市	1,975kW	8,146kWh	2026年 5 月29日	2026年10月頃 （予定）
4	NC海南省木津蓄電所	和歌山県海南市	約2MW*	約8MWh*	2026年 9 月頃 （予定）	未定
5	NC揖斐川町谷汲名札蓄電所	岐阜県揖斐郡揖斐川町	約2MW*	約8MWh*	2026年10月頃 （予定）	未定
6	NC長野市上ヶ屋蓄電所	長野県長野市	約2MW*	約8MWh*	2026年10月頃 （予定）	未定
7	NC枕崎市桜山東町蓄電所	鹿児島県枕崎市	約2MW*	約8MWh*	2026年 8 月頃 （予定）	未定
8	NC白河市表郷番沢蓄電所	福島県白河市	1,998kW	8,146kWh	2026年6月24日	2026年7月17日
9	埼玉県秩父郡小鹿野町両神薄 864-10蓄電所（仮称）	埼玉県秩父郡	1,990kW	8,359kWh	2026年12月頃 （予定）	未定
10	NC大田市仁摩町蓄電所 ※ 8月末取得予定	島根県大田市	約2MW*	約8MWh*	2026年6月5日	未定
11	NC鳥取市気高町2蓄電所	鳥取県鳥取市	約2MW*	約8MWh*	2026年6月30日	未定

* No. 4～7 の定格出力・定格容量は、本プロジェクトの標準的な設備規模（約2MW／約8MWh）に基づく予定値であり、施設名を含む詳細は受電開始時等に改めて開示いたします。
受電開始・需給調整市場参入の予定時期はいずれも現時点の見通しであり、許認可・工事進捗・系統制約・市場環境その他の要因により変更となる可能性があります。

- 高圧・低圧の両領域でFIP転換の第一号案件が本格始動

開発パイプラインの進捗（2026年8月14日時点）

	設備規模（太陽光／蓄電池）	運転開始予定	進捗状況
宇城（高圧）	● 太陽光：約970kW ● 蓄電池：約2,500kWh	2026年夏頃	1.取得 2.工事 3.認定取得済
菊池*（低圧）	● 太陽光：約500kW ● 蓄電池：約2,090kWh	2026年11月	1.取得 2.基礎工事着工 3.認定
志布志*（低圧）	● 太陽光：約500kW ● 蓄電池：261kWh	2026年冬頃	1.取得済 2.工事 3.認定

* 菊池・志布志はブルースカイソーラー(株)との協業案件

● FIP転換による収益力の大幅向上（宇城）

- 出力制御時（市場価格が安い日中）に充電し、価格が高い時間帯に放電（売電）することで、**アービトラージ収益**を得る
- FIT時代と比較し、**年間約3,500万円の売電収益向上**を見込む

● 自社実証で蓄積したノウハウを活かし、FIP転換支援へ展開（菊池・志布志）

- 菊池や志布志などの低圧案件を1MW以上に束ね、**2027年3月の需給調整市場参入**を目指す（アグリゲーションの確立）
- 自社運用で得た知見をパッケージ化し、他社発電所の**FIP転換・EMS導入をワンストップで支援**する新たな収益基盤を創出

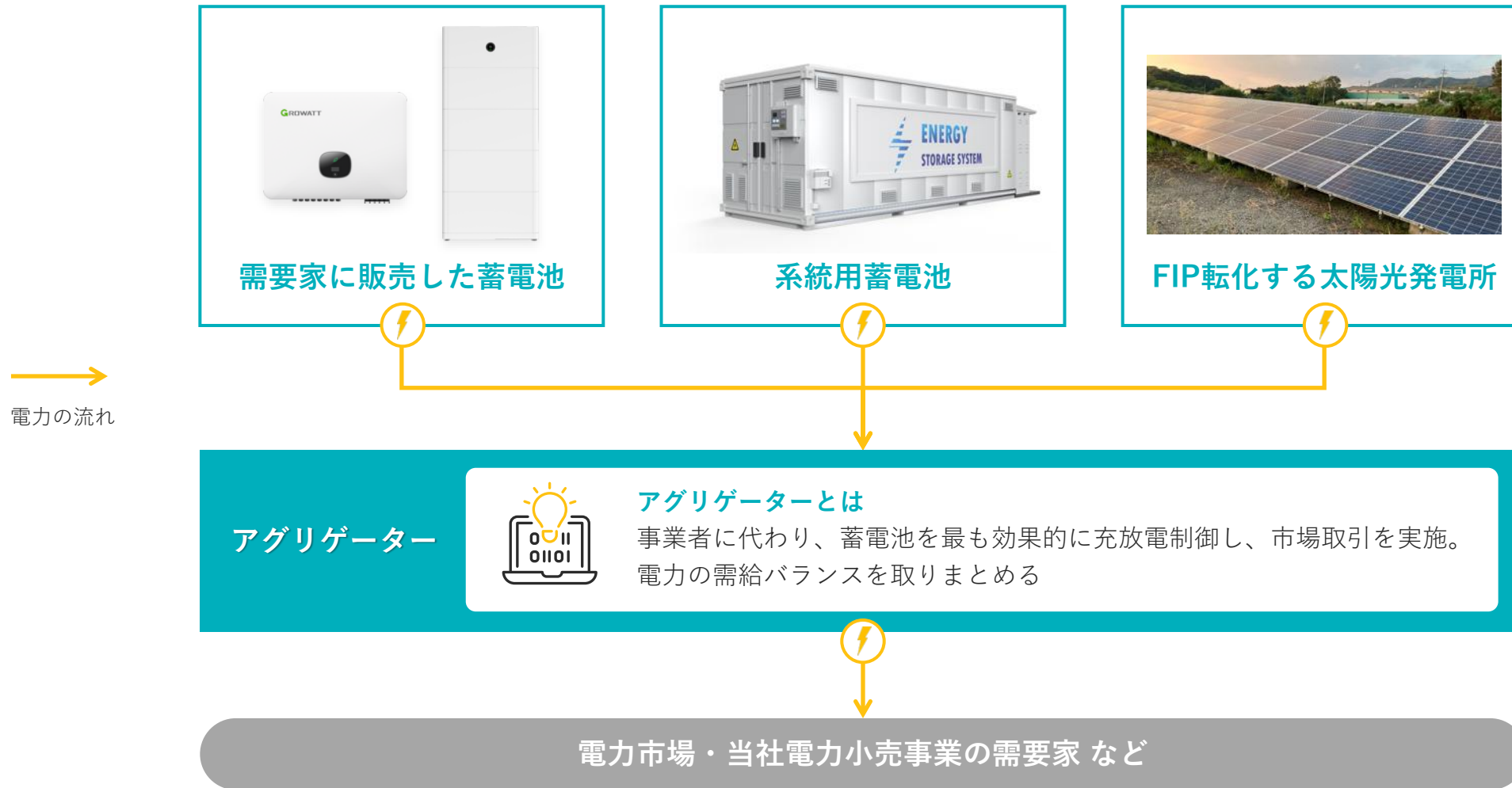


宇城太陽光発電所



リュミエ菊池

- 将来的に、需要家に販売した**蓄電池**、新たな取り組みの**系統用蓄電池**、FIP転化事業で手掛けた**太陽光発電所の電力需給をアグリゲーターとして制御し、新たな収益へ**



- これまでのノウハウと知識を生かした補助金申請支援を通し、企業の再エネ・省エネをサポート

補助金支援実績

累計採択件数：**921** 件（平成25年度補正予算～現在）

※令和8年度実績 採択件数：**18**件 採択率：**95%**（2026年6月30日時点における実績）

主な支援実績補助金

- 経産省 省エネ・非化石転換補助金（設備単位型）
- 経産省 省エネ・非化石転換補助金（工場・事業場型）
- 経産省 災害時に備えた社会的重要なインフラへの自衛的な燃料備蓄の推進事業費補助金
- 環境省 脱炭素技術等による工場・事業場の省CO2化加速事業
- 環境省 コールドチェーンを支える冷凍冷蔵機器の脱フロン・脱炭素化推進事業
- 環境省 ストレージパリティの達成に向けた太陽光発電設備等の価格低減促進事業
- 環境省 地域共生型太陽光発電設備導入事業
- 環境省 業務産業用蓄電システム導入支援事業
- 国交省 地域物流脱炭素化促進事業
- 厚労省 地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金
- 東京都 ゼロエミッション化に向けた省エネ設備導入・運用改善支援事業 等

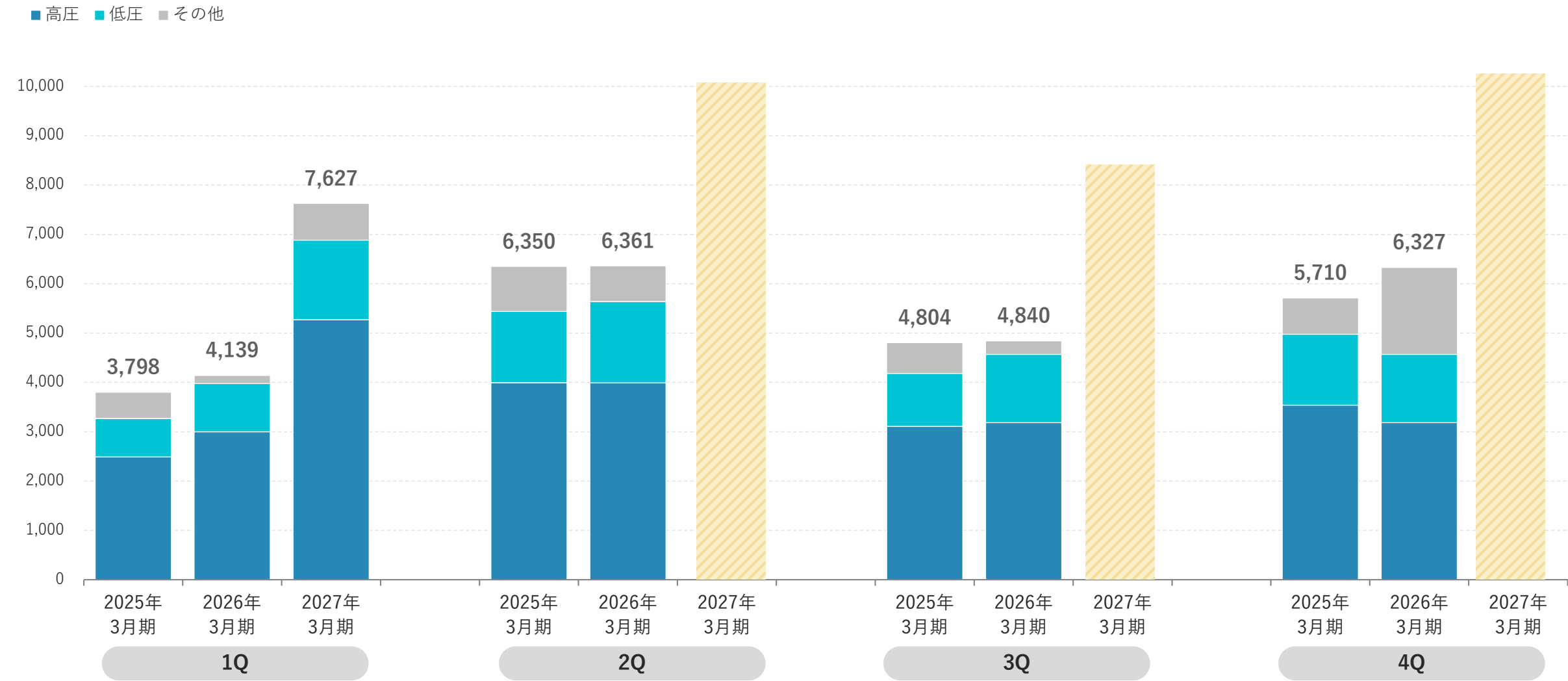
登録等

- エネマネ事業者
（令和7年度補正予算登録）
- ZEBプランナー
（ZEB30P-00019-C）
- SHIFT事業支援機関



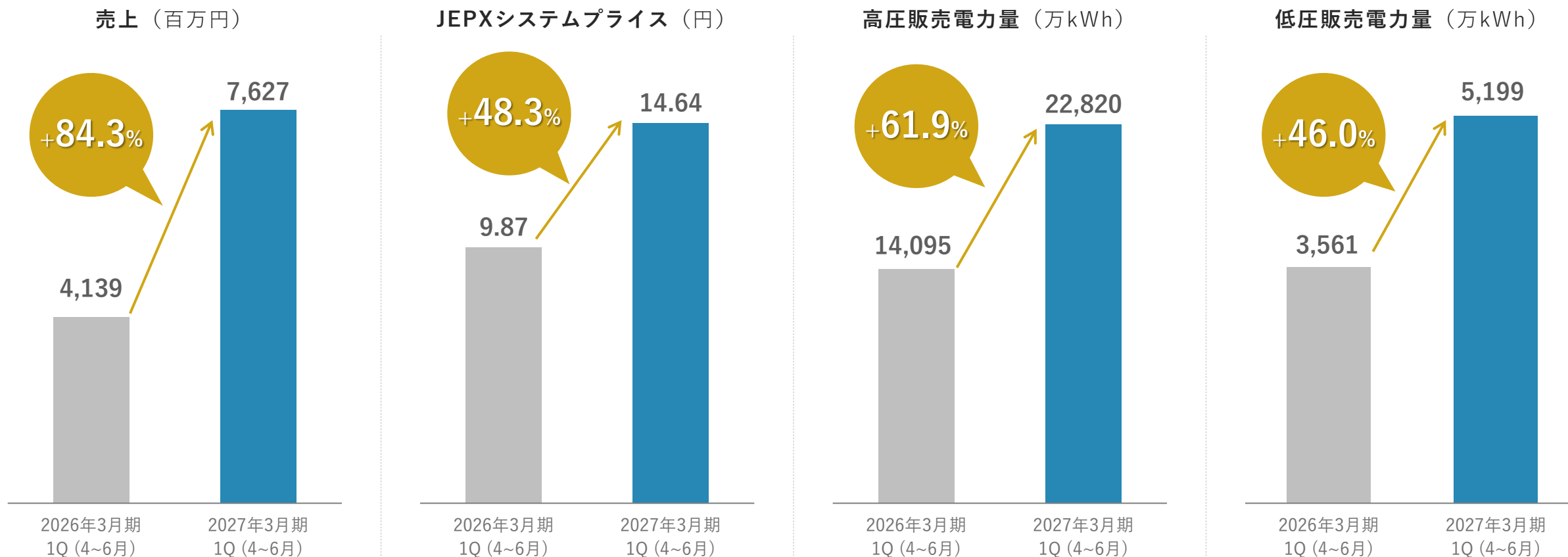
エネルギー事業

四半期毎の売上高推移(百万円)



※「その他」には、電力市場において余剰電力を販売した売上や、国の「電気・ガス価格激変緩和対策事業」における補助金売上が含まれます。

- 地政学的要因等によりJEPX価格が上昇（+48.3%）する中、**需要家への安定供給と事業基盤の維持**を徹底
- 調達ポートフォリオの分散や料金プランの適切な運用により、**市場価格変動の影響をコントロール**
- 高圧・低圧ともに**販売電力量が大幅に増加**し、売上高は前年同期比+84.3%と**力強い成長**を達成





高圧

産業・施設向け

契約電力

50kW以上

- 契約区分：工場、病院、商業施設やビルといった大型施設が中心
- 電気使用量が時間帯で大きく変動（日中に大量消費し夜はあまり使われない）

当社における 対応状況

契約口数

3,625件（41.4万kW程度）

- 電源構成や契約条件の異なる**全5プランを展開**し、高圧需要家の**多様なニーズに対応**することで契約規模を拡大



- JEPX・高圧スタンダード・高圧ハイブリッドの価格転嫁型プラン（約78%）は、調達コストの変動が販売価格に反映される設計となっており、外部環境による**価格変動リスクを低減**

	JEPXスタンダードプラン	高圧スタンダードプラン	高圧フラットプラン
プランの特徴	電気料金がJEPX(卸電力取引所)からの電力調達コストに連動するプラン	電気料金がJEPX、相対電源等のすべての電力調達コストに連動するプラン	電気料金単価を固定化した、電源調達コストに影響を受けないプラン
売上比率	37.4%	33.4%	21.7%

	高圧ハイブリッドプラン	高圧チョイスプラン
プランの特徴	電気需要が高い夏・冬には固定単価プランが、電気需要が低い春・秋には市場連動型プランが適用される	相対電源と市場電源の割合を顧客が選択できるプラン
売上比率	7.5%	0.0%

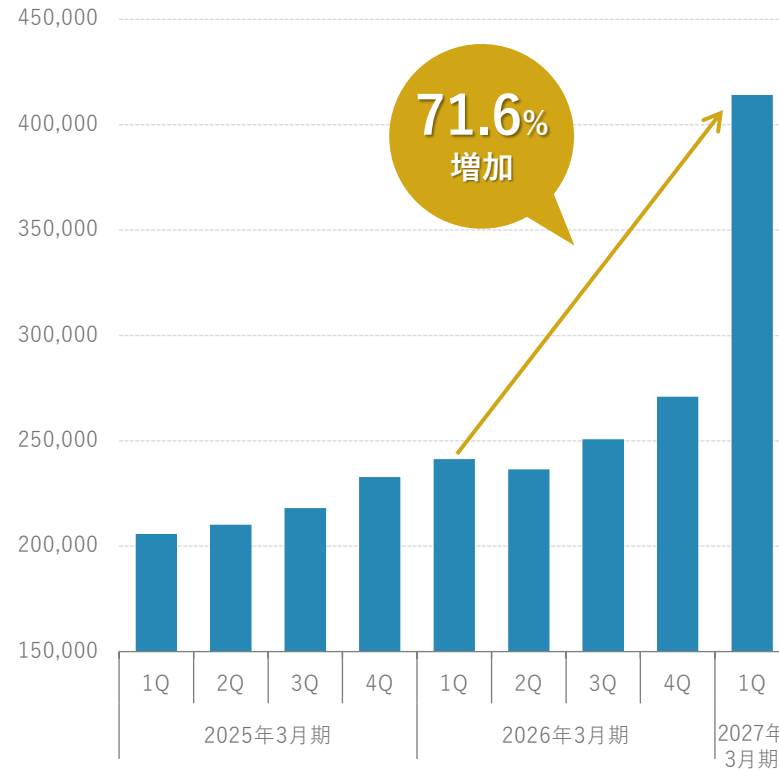
- 大口需要家の獲得推進および営業チャネルの強化により、**主要KPIが前年同期比で大幅に伸長**

高圧需要家の獲得状況推移

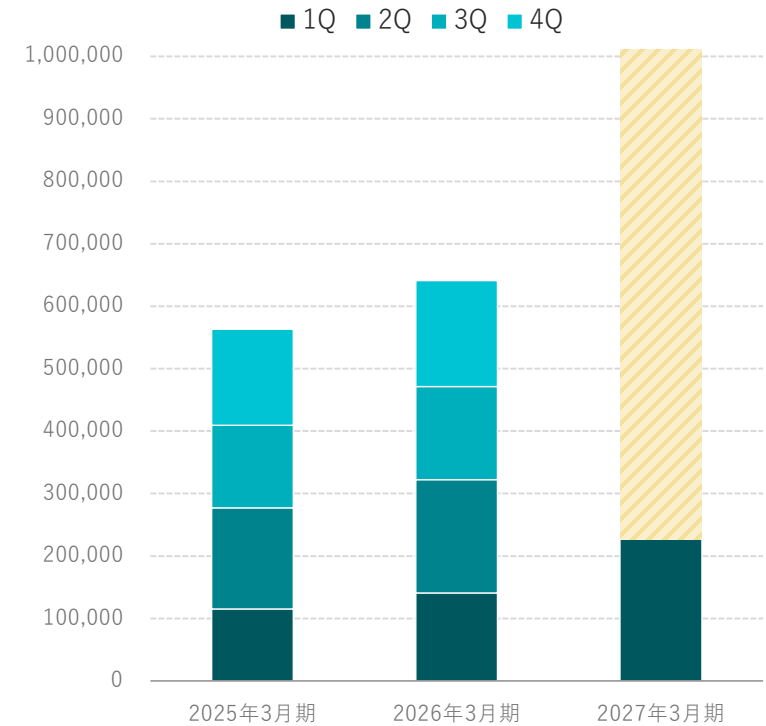
契約口数（件）



契約kW（kW）



販売電力量（千kWh）





契約電力

50kW未満

- 契約区分：商店や飲食店、事務所、一般家庭などが対象
- 電気使用量は比較的平たんで、24時間の使用量変動が小さい

当社における
対応状況

	低圧法人	一般家庭
契約口数	約34,500件	約26,900件

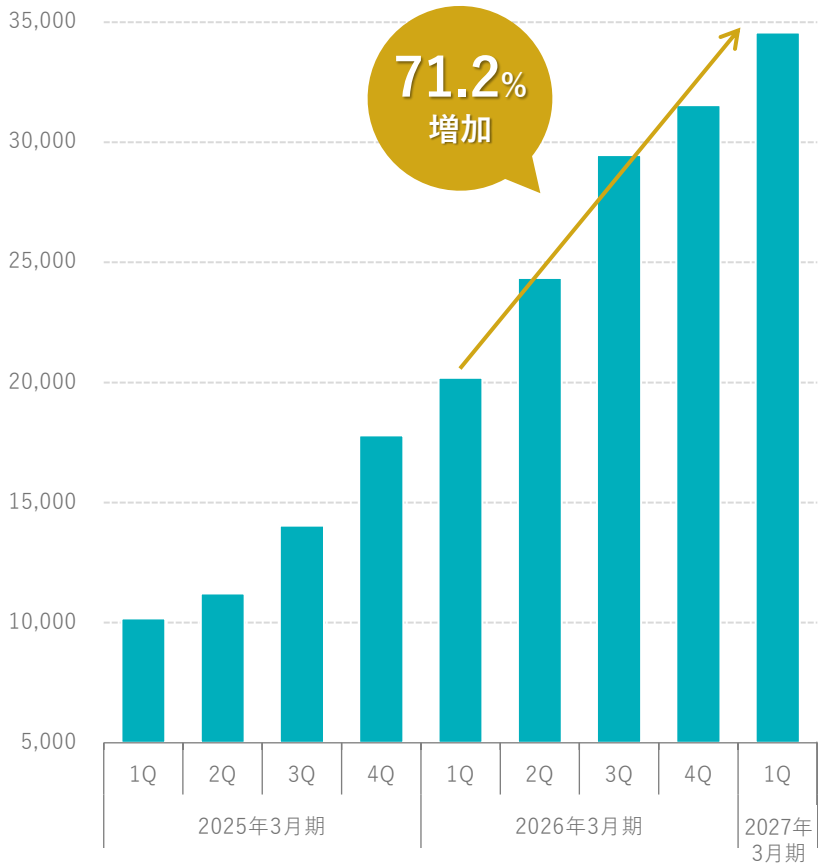
- 低圧法人・一般家庭ともに契約口数が前年同期比70%以上と大幅に増加



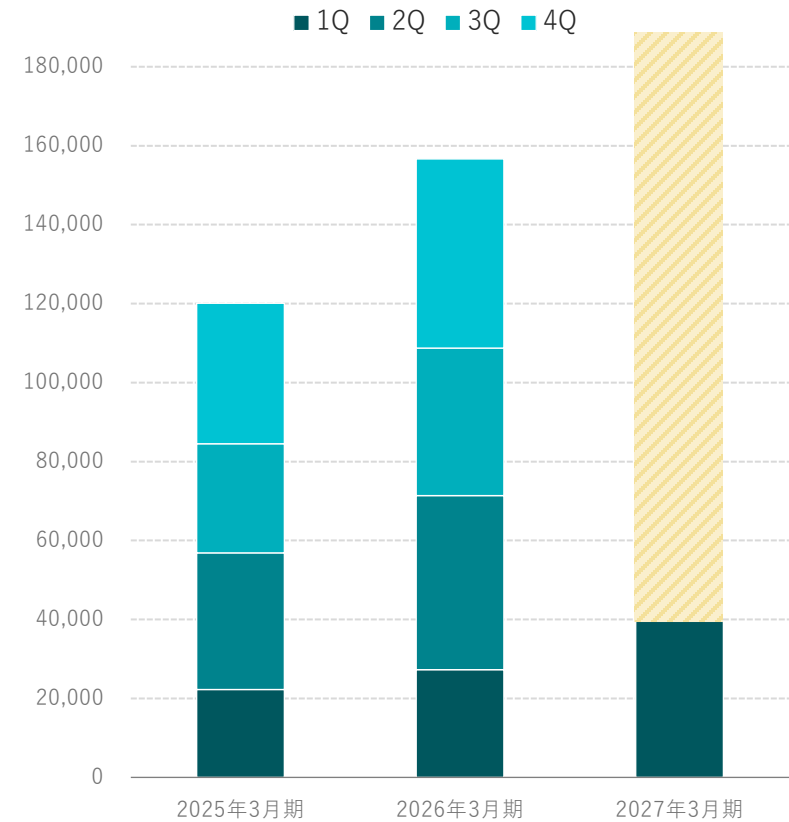
- 代理店網の拡充と連携強化により、**新規受注は想定を上回り推移**
- 低圧法人需要家の**契約口数が3万4千件を突破**

低圧法人需要家の獲得状況推移

契約口数（件）



販売電力量（千kWh）

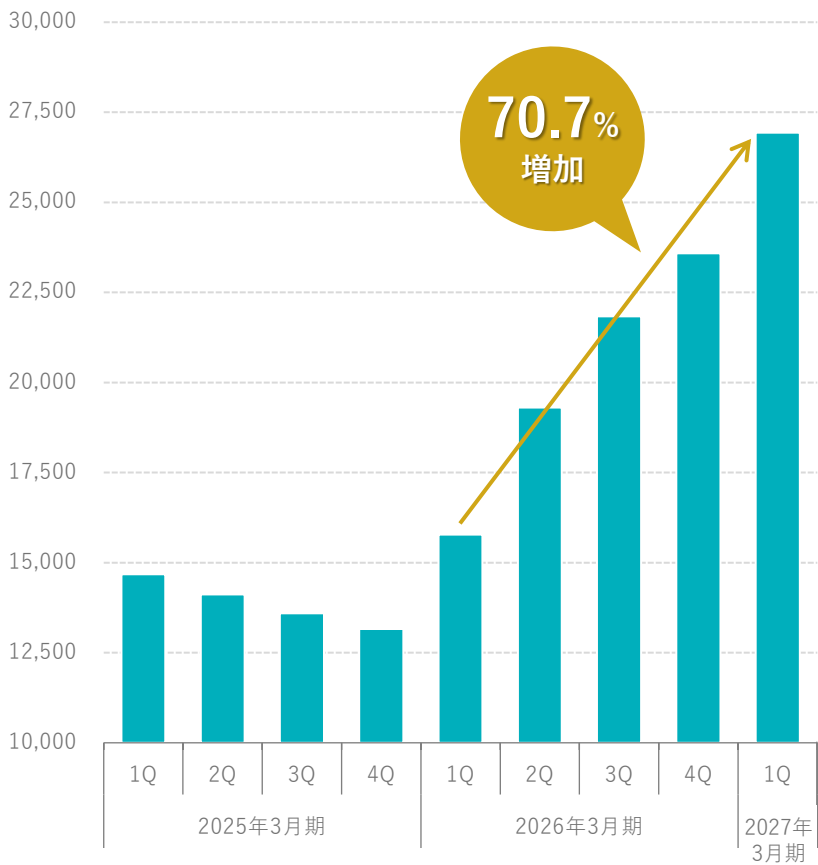




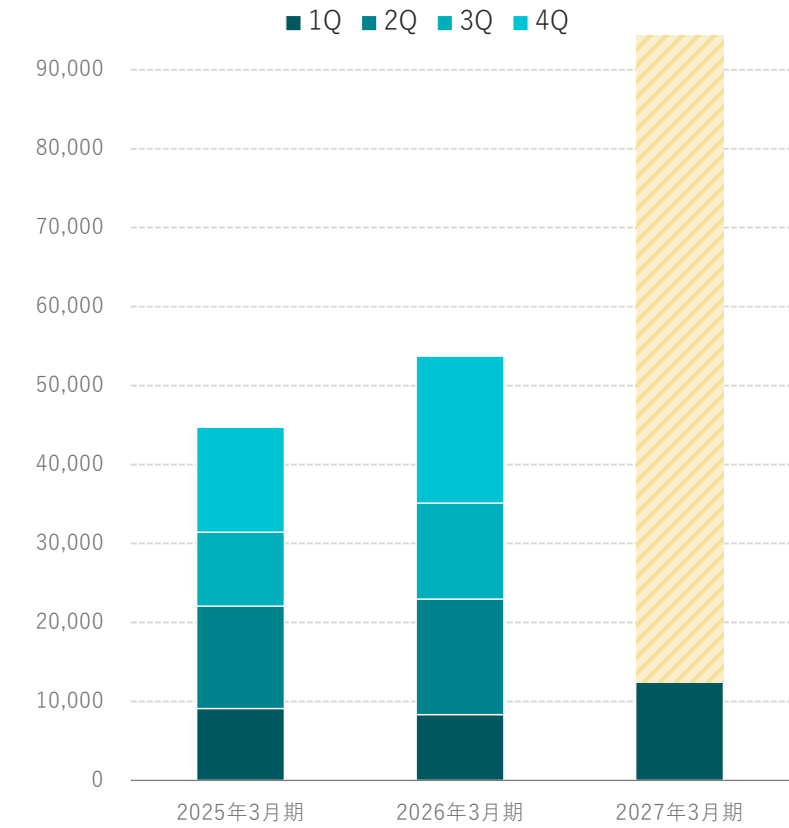
- 積極的な販促活動の結果、**契約口数**が**大幅に増加**

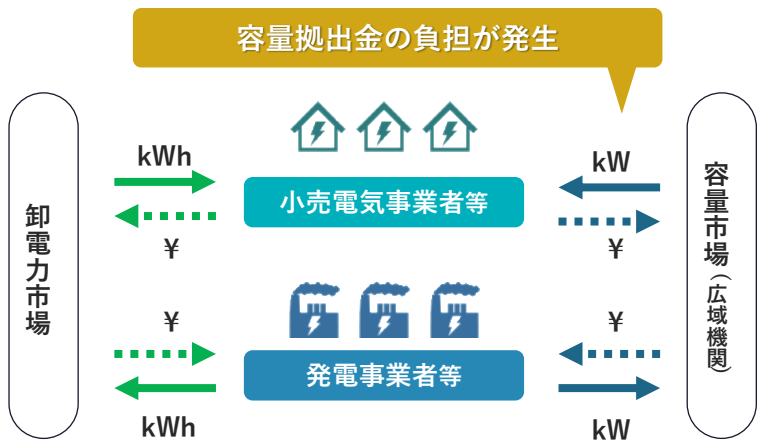
低圧一般家庭需要家の獲得状況推移

契約口数（件）



販売電力量（千kWh）





容量拠出金制度とは

容量市場*において国全体で必要な供給力（発電量）を確保するため、発電事業者に渡す**容量拠出金**を小売電気事業者および一般送配電事業者、配電事業者が負担する制度のこと。発電所の建設・運営に必要な固定費の一部を小売電気事業者が負担することで、発電事業者が発電所を維持できるようにする。

*将来必要となる電源設備の「容量」を確保するための市場のこと。従来の卸電力市場は発電した「電力量」（kWh）を取引するが、容量市場は発電することが可能な「容量」（kW）を取引する市場と定義される。



量的な供給力確保義務とは

小売電気事業者が、将来の電力需要に見合う電力量（kWh）を、事前に中長期的な契約などで確保することを義務づける制度。電力の安定供給を図り、電気料金の急激な変動リスクを抑制することを目的としており、3年前に想定需要の5割、1年前に7割の確保を義務付けるなどの案が検討されている。

当社の対応方針

2016年に電力小売ビジネスへの参入以来、電源調達・需給管理を内製化しノウハウを蓄積してきた当社は、上記の制度導入をビジネスの好機ととらえ、より高度なオペレーションを実現し、新たなビジネスチャンスの創出を目指す。

デジタルアセット マネジメント事業

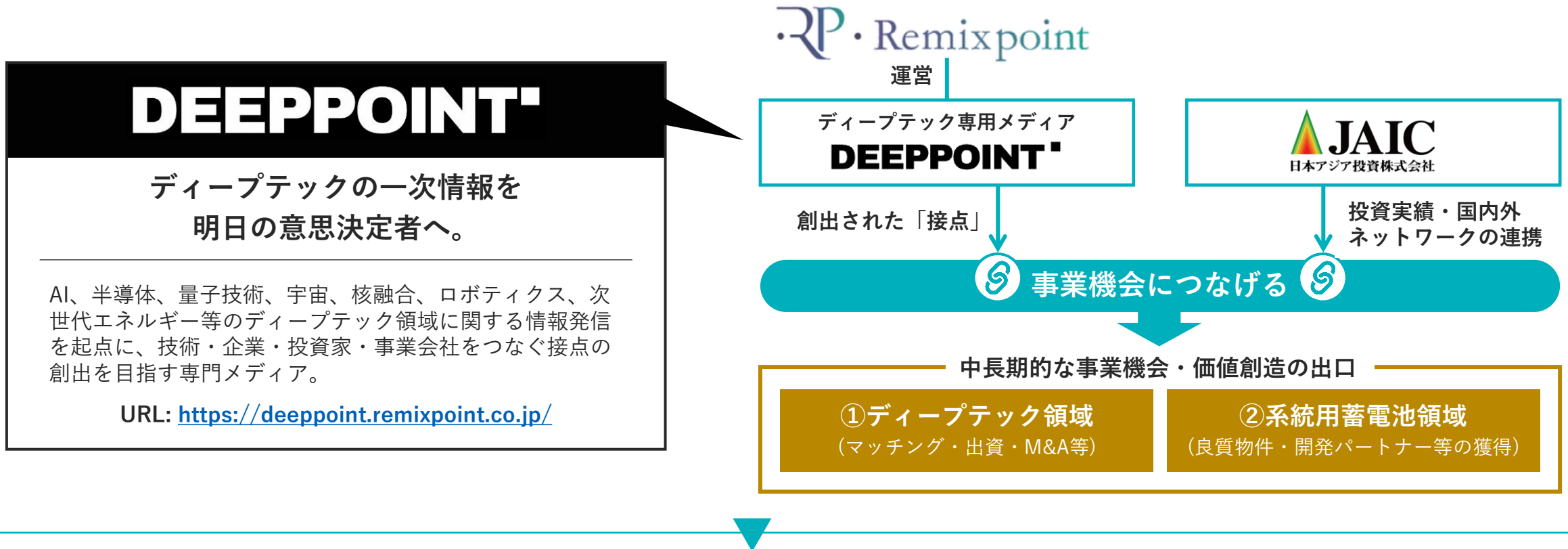
2026年4月に、総額10億円相当のビットコインを追加購入
当社が保有する暗号資産の内訳および損益（2026年 6 月30日時点）

	保有枚数*1	簿価*2（円）	時価評価額*3（円）	損益*4（円）
 BTC	1,501.27086805 BTC	16,052,103,663	14,242,151,382	▲1,809,952,281
 ETH	901.44672542 ETH	293,222,590	228,638,440	▲64,584,150
 SOL	13,920.07255868 SOL	178,580,610	165,022,460	▲13,558,150
 XRP	1,191,204.799501 XRP	248,902,242	199,884,165	▲49,018,077
 DOGE	2,802,311.99657 DOGE	40,336,478	32,047,239	▲8,289,239
合計	—	16,813,145,583	14,867,743,686	▲1,945,401,897

*1 2027年 3 月期期首時点の保有枚数に、2026年 4 月 1 日以降の追加取得分およびレンディング報酬として受領したビットコイン（2026年 6 月30日時点）を加算しております。
*2 2027年 3 月期期首簿価に、2026年 4 月 1 日以降取得したビットコイン取得価額1,000,000,000円およびレンディング報酬として受領したビットコインの評価額（受領月の平均レートに基づき算出）を加算しております。
*3 時価は、2026年 6 月30日の終値(2026年 6 月30日24：00時点)を基に算出しております。
*4 2027年3月期第 1 四半期累計期間(2026年 4 月 1 日～2026年 6 月30日)の損益計算書に売上高(損失)として計上しております。

未来の社会を支える革新的技術「ディープテック領域」に事業参入

- ディープテック領域：社会基盤や産業競争力を左右する**重要分野**（AI、半導体、量子技術、バイオ、次世代エネルギー等）
- 自社メディア：専門メディア「**DEEPPPOINT**」を7月にプレリリース
- 戦略的提携：**日本アジア投資（JAIC）**と基本合意書を締結。技術・企業・資本を繋ぐプラットフォームを共同活用



情報発信を起点とした
新たな事業機会の創出

技術・企業・投資家をつなぐ「Deep Tech Growth Platform」を構築し、
当社の企業価値向上に資する事業機会（出資・M&A・共同事業等）を追求します。

Appendix

四半期毎損益計算書推移

(単位：百万円)		2026年3月期				2027年 3 月期
		4～6月 (1Q)	7～9月 (2Q)	10～12月 (3Q)	1～3月 (4Q)	4～6月 (1Q)
売上高	蓄電ソリューション事業	230	389	408	1,363	297
	エネルギー事業	4,139	6,361	4,840	5,750	7,627
	デジタルアセットマネジメント事業	1,970	1,768	▲4,738	▲4,888	▲1,890
	その他	153	—	—	—	1
	合計	6,494	8,519	510	2,227	6,035
営業利益 (▲は損失)	蓄電ソリューション事業	▲9	134	87	347	13
	エネルギー事業	183	589	195	68	611
	デジタルアセットマネジメント事業	1,970	1,768	▲4,738	▲4,888	▲1,890
	その他	▲14	▲1	▲0	▲0	0
	セグメント調整額	▲388	▲301	▲230	▲250	▲452
	合計	1,741	2,189	▲4,685	▲4,722	▲1,717
経常利益 (▲は損失)		1,760	2,176	▲4,714	▲4,724	▲1,775
親会社株主に帰属する当期純利益 (▲は純損失)		2,283	1,827	▲4,108	▲4,742	▲1,774

資産の部

(単位：百万円)	2025年3月31日現在	2026年6月30日現在
現金及び預金	1,993	2,784
売掛金及び契約資産	3,892	5,879
仕掛品	379	679
自己保有暗号資産	771	635
営業投資有価証券	364	422
貸付暗号資産	14,970	14,242
その他	1,001	1,707
流動資産計	23,374	26,351
固定資産計	4,347	6,291
資産合計	27,721	32,642

負債・純資産の部

(単位：百万円)	2025年3月31日現在	2026年6月30日現在
買掛金	1,567	2,702
預り金	288	455
短期借入金	500	3,500
その他	1,376	2,391
流動負債計	3,732	9,050
固定負債計	—	117
負債合計	3,732	9,167
純資産合計	23,988	23,474
負債・純資産合計	27,721	32,642

リミックスポイント 会社概要

商号	・RP・Remixpoint 株式会社リミックスポイント
本社	東京都港区虎ノ門4-3-9 住友新虎ノ門ビル
設立	2004年3月
資本金	5,686百万円（2026年6月末時点）
子会社	イプシロン・ホールディングス株式会社 株式会社シールエンジニアリング
決算期	3月
代表者	代表取締役社長 CEO 高橋 由彦
事業内容	蓄電ソリューション事業 エネルギー事業 デジタルアセットマネジメント事業



- ① 本資料に含まれる予想数値および将来の見通しに関する記述・言明は、当社グループが現在入手している情報による判断・評価・仮定に基づいております。その判断・評価・仮定に内在する不確定性・不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等により、実際に生じる結果が予測内容等とは実質的に異なる可能性があります。当社グループは、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
- ② 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、当社グループにより何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ③ 目的を問わず、本資料を無断で引用又は複製することを禁じます。